

第 198号

連携室だより



公益財団法人
北海道医療団

帯広第一病院

帯広第一病院理念・基本方針

【理念】

地域に信頼される病院を目指し、質の高い、思いやりのある医療サービスを提供する。

【基本方針】

- 1 患者の皆様2 地域医療機関との連携を推進します。の安全と権利を守ります。
- 3 救急医療の充実に努めます。4 研修や教育を積極的にを行います。
- 5 働きがいのある職場を作ります。

花の妖精

提供：ホスピタルアートボランティア様



今号の内容

- ・医師紹介 / 令和3年度救急センター実績報告 救急センター長 菊地 大介 (2)
- ・令和3年度化学療法センター実績報告 化学療法センター長 青木 泰孝 (3)
- ・令和3年度麻酔科ペインクリニック実績報告 副院長 佐々木 英輝
- 当院のAST (抗菌薬適正使用支援チーム) の活動開始について 薬剤師 柏木 怜 (4)

医師紹介

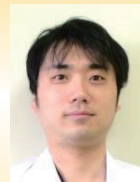


総合診療科

かも さとみ
加茂 里美

令和4年7月1日より健康管理センターから総合診療科副部長として常勤勤務となりました。

令和3年度救急センター実績報告



救急センター長 菊地 大介

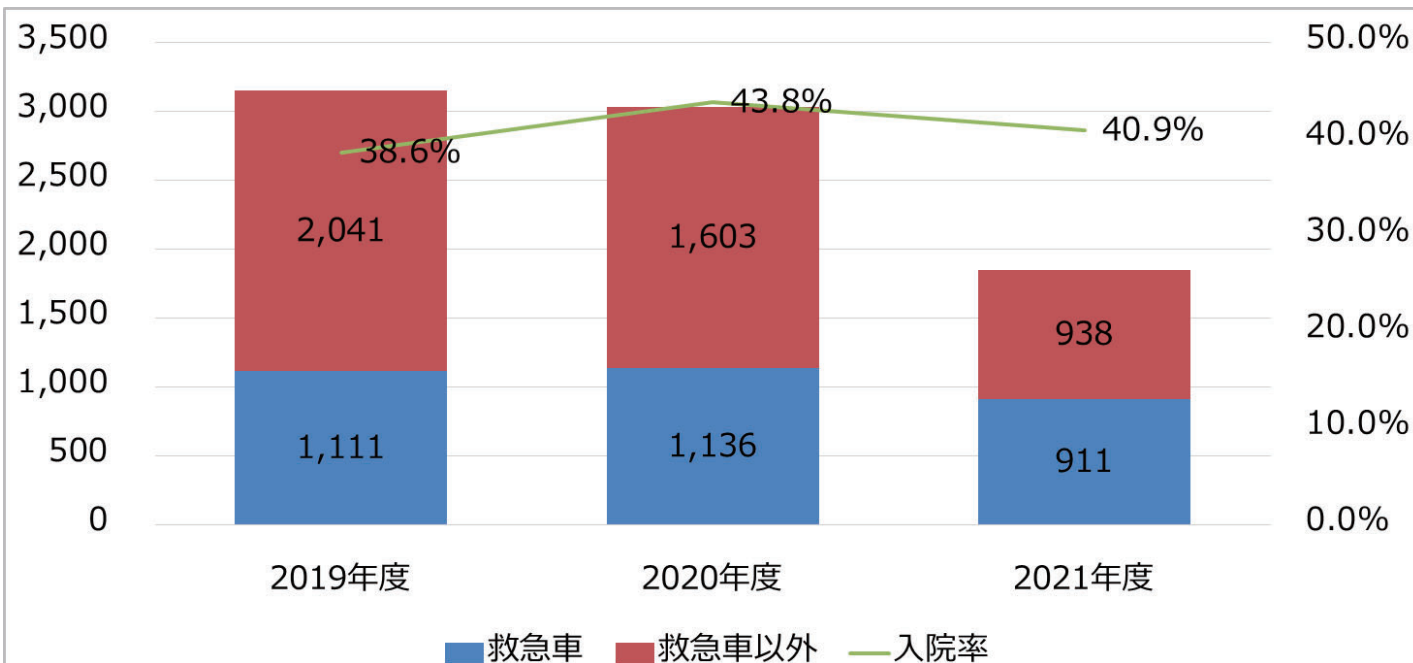
十勝管内の先生方には、日頃より大変お世話になっておりますとともに多くの患者様をご紹介いただき、誠に有難うございます。また新型コロナウイルスによるクラスター発生時には一時的に病院機能停止したことにより、多大なご迷惑をお掛けして誠に申し訳御座いませんでした。

十勝管内における二次救急輪番病院の指定を受けております当院救急センターですが昨今のコロナ感染症の拡大により消防搬送件数は例年1000件を超えておりましたが、昨年は911件と減少しました。しかし3年前より救急専門医を専従配置し、日中・夜間共に救急体制を充実させており、以前より重症者の受け入れに力を入れておりますので益々のご紹介をお願いします。

コロナ前に行っておりました十勝管内の消防署へ出向いての勉強会や、各消防署の救急症例検討などの再開を検討しており更なる救急隊との情報共有を進めていくこと、また院内BLSを定期開催し、救急の現場における迅速な判断・確実な救急処置の習得に努めていく所存です。

当センターで全ての症例を完結することは不可能であり高次医療機関へ転院搬送する例もありますが、これからも多くの患者の命を救える様に当院一丸となり十勝管内の救急を担っていきたいと思います。

救急センター実績



令和3年度化学療法センター実績報告



化学療法センター長 青木 泰孝

十勝地域の先生方には、日頃より大変お世話になっております。

令和3年4月より化学療法センター長・外科副部長を務めさせていただいております青木で御座います。昨年から今年にかけて当院では2回のコロナクラスターを招いてしまい、患者様・ご家族・近隣の医療関係者の皆様、本当にたくさんの方々にご迷惑をお掛けしましたこと心よりお詫び申し上げます。

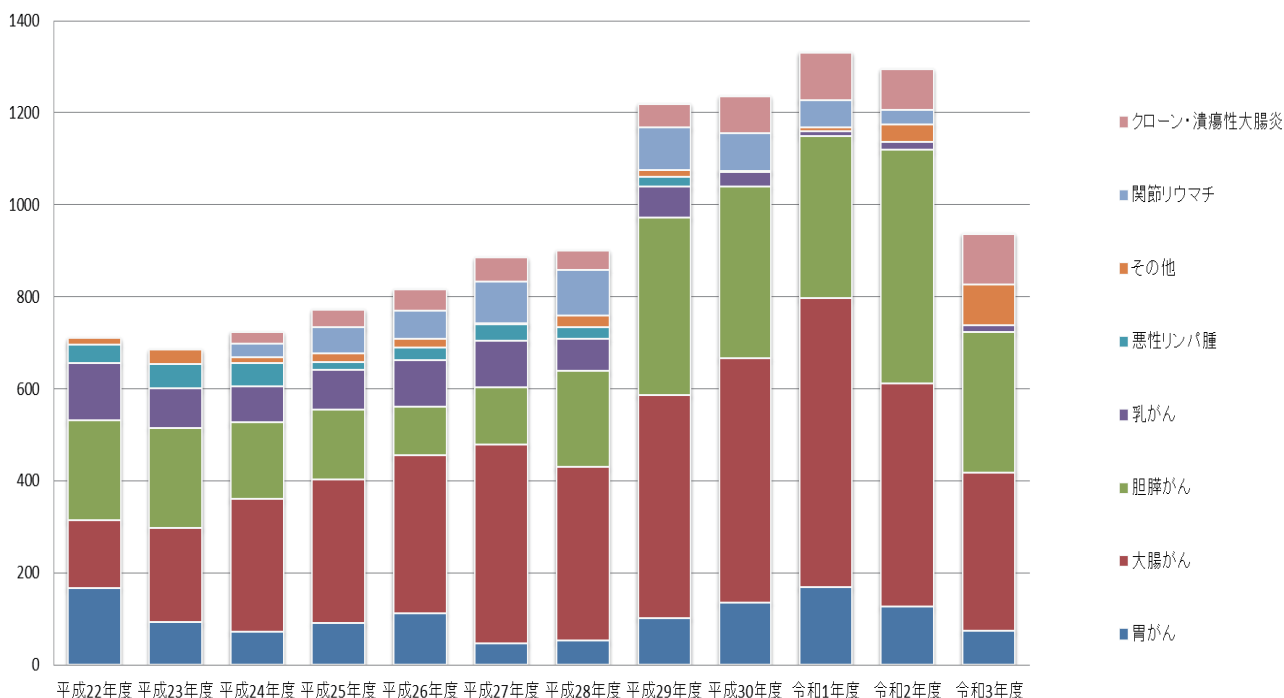
今回は当院化学療法センターにおける令和3年度の化学療法の施行状況につきましてお話させていただきます。昨年度令和3年4月から年間の化学療法の施行数は全体で937件（昨年度全体は1295件）となっております。新型コロナウイルスの影響や当院のクラスターの影響を受け、全体としては施行数は減少となりました。胃癌：73件、大腸癌：345件、胆膵癌：305件、乳癌：15件、IBD関連：110件、その他：89件といった内訳となっておりますことご報告させていただきます。

当院は胃癌や大腸癌にとどまらず、胆膵癌やクローンや潰瘍性大腸炎などのIBD疾患についても専門知識を有する医師が在籍し積極的な加療が行われております。今後は、新型コロナウイルス感染症に対して、クラスター再発を起こさぬよう更なる対策を講じていく所存で御座います。

近隣の先生方におかれましては、当院に化学療法の必要な胆膵癌患者様がいらっしゃいましたら是非ご紹介を頂きたいと考えております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



化学療法センター利用状況



令和3年度麻酔科ペインクリニック実績報告



副院長 佐々木 英輝



令和3年4月～令和4年3月までの手技実績報告をさせていただきます。
同データはホームページでも公開しております。



くも膜下フェノールブロック	1例	眼窩上神経ブロック	2例
くも膜下ブロック	1例	肋間神経ブロック(局所麻酔)	2例
頸椎椎間関節ブロック	3例	仙腸関節ブロック	6例
腰部交感神経節ブロック	3例	星状神経節ブロック	109例
神経根ブロック(局所麻酔薬)	22例	肩甲上神経ブロック	36例
神経根ブロック(高周波熱凝固法)	21例	肩関節腔内注射	480例
腰椎間関節ブロック	10例	トリガーポイント注射	1,269例
脊髄神経後枝内側枝ブロック(高周波熱凝固法)	6例	腰神経叢ブロック	35例
腕神経叢ブロック	71例	膝関節腔内注射	1,381例
硬膜外ブロック(頸部・胸部・腰部・仙骨部)	870例	腱鞘周囲注射	3例
外側大腿皮神経ブロック	19例	神経ブロック(ボトックス注射)	1例
関節腔内注射	84例	浅頸神経叢ブロック	2例
眼窩下神経ブロック	17例	皮内注射	1例
大後頭神経ブロック	17例		

合計 4,472例

当院のAST(抗菌薬適正使用支援チーム)の活動開始について

薬剤師 柏木 怜

こんにちは、帯広第一病院AST担当薬剤師の柏木と申します。

抗菌薬の濫用による耐性菌の蔓延を防止するため抗菌薬を適正に使用する院内体制の必要性が叫ばれており、遅ればせながらではありますがこの4月より当院でもASTを立ち上げ、適正使用に向けての活動を開始しています。医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師の4職種でチームを構成し、抗菌薬の使用状況のデータ化や、注意すべき症例のラウンドなどの活動を始めております。まだまだ手探りの状態ではありますが、少しずつ活動を拡大していきたいと思っています。

今後は地域の医療機関と連携し、耐性菌対策を進めていく場が増えていくと思います。力不足ではありますが、十勝地方での耐性菌の増加を抑え、安心して抗菌薬が処方できる・感染症の治療が行うことができる環境づくりの一助になればと思いますので、よろしくお願いいたします。



発行 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療連携室
〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3
TEL 0155-25-3121(病院代表) / 0120-558-091(連携室直通)
FAX 0155-27-0248(連携室専用) e-mail renkei@zhi.or.jp

